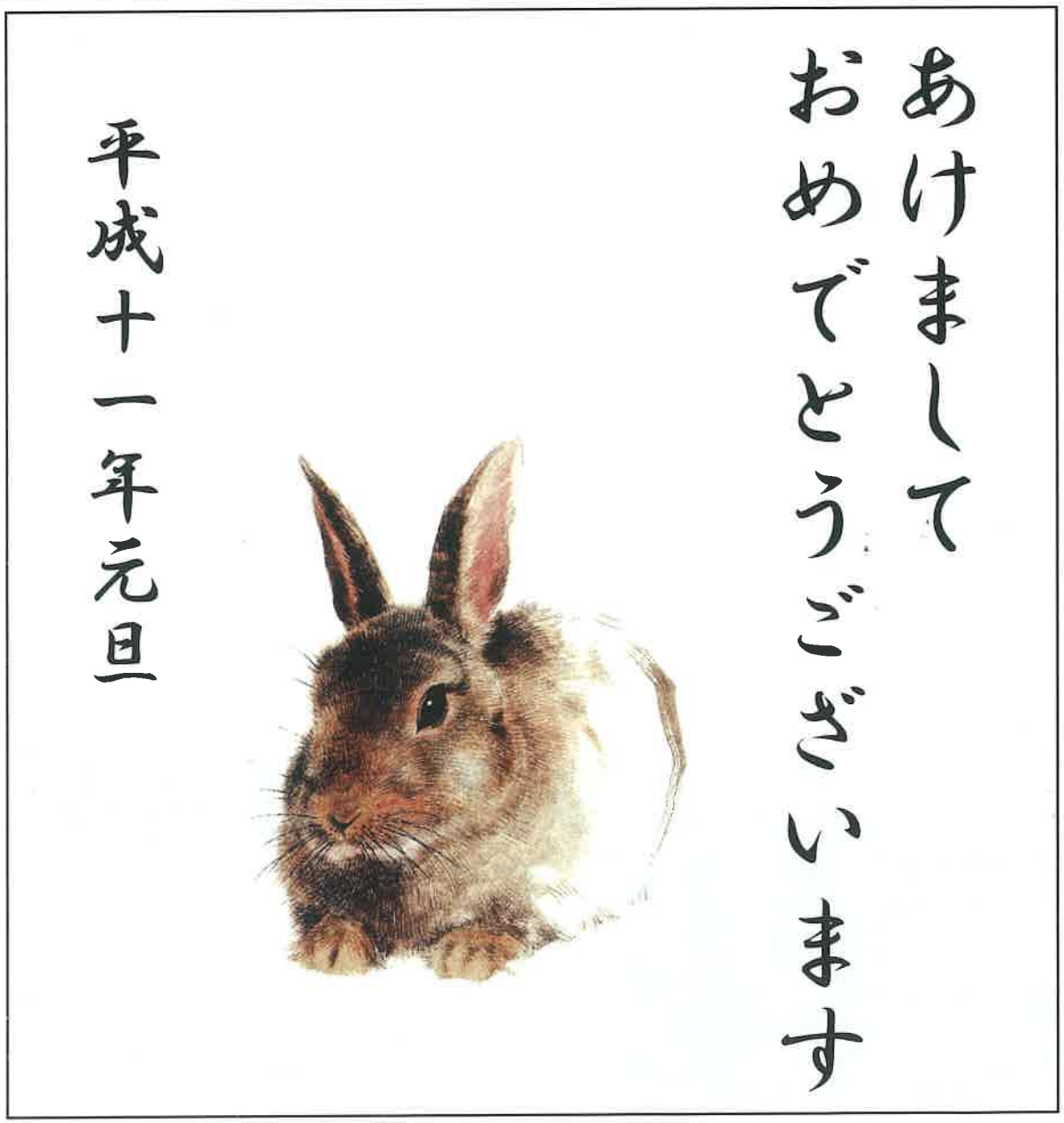
平成11年1月1日　第1250号　発行：湯沢町役場

広報 ゆざわ

わたしたちのねがい

湯沢町町民憲章

美しい自然につつまれた雪のまち湯沢
清らかな愛情あふれるまち
すこやかな活力みなぎるまち
さわやかな誰もが訪れたいまち
みんなで力をあわせ
豊かで明るく住みよい
文化の香り高いまちをつくりましょう



1月1日から3日までが三が日。この3日間は、家族が晴れ着を着て、おとそで新年を祝い、雑煮やおせち料理を食べるというのが一般的とのこと。三が日はご飯を炊かずに、朝・昼・晩とも雑煮を食べるなんてことも昔は珍しくありませんでした。でも最近は正月といっても特に餅を食べることをしないで、いつもどおりの食事という家庭も多いのだそうです。時代が変わったということでしょうか…。

さて、1999年です。子どものころ、ノストラダムスの予言を知り、「1999年には自分も38歳。一体どこで何をしてるだろうか。」なんて考えましたが、まさか役場の職員になっているなんて夢にも思いませんでした。でも、子どものころも1999年も、三が日に餅を食べていることには変わりありません。



年頭のごあいさつ

湯沢町長　村山　隆征



明けましておめでとうございます。皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたします。

雪のまち湯沢も昨年は、不況に加えて暖冬少雪、冷夏、長雨といった異常気象にみまわれました。また台風による集中豪雨は各地に大きな被害を及ぼし、現在、国県の協力により復旧工事を進めているところです。今年こそ良い年にしたいと念じております。

さて、長引く景気の低迷、不況の深刻化に対する政府の緊急経済対策の一環として、個人消費の喚起及び地域経済の活性化を図るため、高齢者や15歳以下の子どものいる世帯に対し、一人当たり2万円の地域振興券が交付されることになりました。現在、3月末日までに該当者に交付できるよう事務を進めております。なお、小売店など特定業者の登録手続等の詳細につきましては、別に広報紙などを通じてお知らせいたします。

ご存知のように本格的な高齢化社会の到来に対処すべく、平成12年4月から公的介護保険制度が実施されます。介護保険の保険料の負担は40歳からとなりますが、安心して暮らせる老後のためにご理解とご協力をお願いいたします。

また、医療保健の充実と福祉増進を図るための医療保健センターの建設を予定しております。平成13年の建設着手に向けて、地域医療振興協会に基礎調査を依頼し、取り組んでいるところであります。

観光面においては、全日空大阪支店及び大阪各旅行代理店の協力により、大阪伊丹空港～新潟空港間の航空便が就航することになりました。新潟空港からスキー客をシャトルバスで苗場に輸送します。またこの冬から日本道路公団と首都高速道路公団、建設省の協力を得て、高速自動車道の東京～湯沢間の通行料金の割引も導入されます。これらの企画に対し、最大限の誘客効果を期待してやみません。

清津川ダム問題につきましては、実施調査が地元の了解を得られたことで、建設省、新潟県に対して予算確保等の運動を行っております。地元と話し合いを進めながら、積極的に取り組んでまいります。

戦後最大の不況で、町財政も厳しい状況にあります。地方分権が進められる中、自ら行政改革を断行し、簡素でクリーンな行政の確立を進めてまいります。皆様の一層のご理解とご協力を賜りまして、潤いのある住み良い町づくりに力を尽くす所存であります。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

決定！第1回ゆざわ景観大賞



町では落ち着きのある美しい景観の町、自然と調和した町づくりを目指して、湯沢町環境色彩計画を提案しています。

昨年、その取り組みの一つとして環境色彩計画に適合する優秀な建築物、工作物、広告塔などを表彰する「ゆざわ景観大賞」を募集しました。町長及び景観づくり委員で構成する選考委員会で検討を重ねた結果、各部門の大賞が次のとおり決定しました。大賞には、表彰状と記念品（木製の盾）が贈られます。



◎景観デザインの部

湯沢高原ビール　ブルワリーレストラン

南ドイツ地方の農家をモチーフにしたデザインで、屋根の色彩、外壁の白壁が背景の立柄山に溶け込んでいます。

◎建築物の部　→

田村邸（原）

外壁に天然素材を使用し、背景の自然と調和したシックな建物になっており、車庫のアイデアにもすばらしいものがあります。

新年のごあいさつ

湯沢町議会議長　山本　邦悦



新年おめでとうございます。

年頭にあたり、一言ごあいさつを申し上げます。

昨年は、冬季オリンピック長野大会に私たちの町から皆川、柏木の両選手が出場し、活躍してくれました。6月には旭原花の郷で陶芸窯開きが行われ、7月には二居の大川フィッシングパークが開場、9月30日には町民待望の特別養護老人ホーム「ゆのさと園」の開園式が行われました。(10月5日から入所を開始。)さらに先般新聞で報道されましたが、平成7年以来私たちが要求してまいりました土樽発電所と取水場間の水の無い区間への放流が、建設省のご指導と東京発電株式会社(前姫川発電㈱)のご協力により実現しました。取水ダムから魚が住める程度の放流が行われ、万太郎谷から毛渡沢合流点までの4キロメートルと毛渡沢の2．5キロメートルに年間を通じて川や渕が蘇ります。去る12月7日に関係者立会いのもと確認をしてまいりました。

このような明るいニュースもあった反面、平成5年以降の経済不況と世情不安は、観光を主体とする湯沢町にとって大きな打撃でした。その上、異常気象による年末年始の雪不足、9月の台風災害の発生と長雨による日照不足での米・野菜の不出来とが重なりました。そして先行き不安による国民の購買意欲の減少が、町の生活基盤である観光産業に大きな影を落としているのが現状であります。

さて、人間誰しも困ったときには考えるものです。今こそ知恵を出し合って前進するときです。「何とかなるだろう」でなく「何とかする」行動に、お客様が来なかったら来るように仕向ける行動に、人の所為にしないで自分で先になって取り組んでみることが大切だと思われます。

湯沢町では清津川ダム問題を始め、医療・保健・福祉、教育関係、農業問題、観光と地場産業、道路関係と防災事業、そして文化の香り高いまちづくりなど大きな問題が山積みとなっております。地方分権の時代が到来し、これからは地方公共団体も自己決定と自己責任をより一層明確にしていかなければなりません。今年こそ議会と町行政の真価が問われる年といえるでしょう。

末筆ながら皆様のご多幸とご健勝を心より祈念申し上げまして、新春のごあいさつといたします。





◎工作物の部
湯沢町建築士会　「清潔の家」
雪国に適合した機能性と景観に配慮されたデザインとなっています。

◎広告物の部（特別賞）
しんばし　「越後本手打きそば看板」
和風造りの店舗とマッチしたデザイン・字体で作成され、統一された雰囲気をつくりだしています。

◎広告物の部　→
湯沢温泉旅館組合　「広告看板」
シンプルかつ落ち着いた色相を採用して自己主張する、新たなサインの提案形といえます。



町民新春年賀交歓会

多くの方々とともに、新たな年をお祝いできればと考えています。オーストリアフェスタで好評をいただいたワイン等も用意してありますので、お誘い合わせの上お気軽にお出かけください。



【日時】 平成11年1月20日（水） 午後6時～ （午後5時30分より受付）
【会場】 湯沢カルチャーセンター アリーナ （立食パーティ形式）
【会費】 お一人様3,000円（当日ご持参ください。）
【申込】 （財）湯沢町都市施設公社 TEL 84－1511
【締切】 平成11年1月10日（日）

主催：湯沢町商工会・湯沢町観光協会・（財）湯沢町都市施設公社

今年は卯年

今年は卯年。十二支の4番目のうさぎ年です。卯は東の方角、また「卯の刻」といえば、午前6時ごろを指します。

明治中ごろから日本でも飼育

うさぎは、ウサギ科の哺乳類です。うさぎというと耳が長く、目が赤く、毛は白、ピョンピョンと跳ねる動物を思い浮かべますが、これはわたしたちがよく見る日本白色種です。毛が白黒（または白茶）でパンダウサギとも呼ばれるダッチ、耳の下がったロップイヤー、耳の短いピーターラビットなど、ほかにも多くの種類がいます。

うさぎが家畜化されたのは、12～13世紀ごろといわれ、その後、ポルトガルの航海者が食糧の補給源として各地に広めたとされています。第一次世界大戦のころはヨーロッパ各地で食肉用、毛皮用にさかんに利用されました。日本では日清、日露戦争のころから、日本白色種が大量に飼育されるようになりました。

うさぎを数えるときに、1匹、2匹と言わずに1羽、2羽と言います。これは昔、獣肉を食べるのを忌み嫌っていた時代に、鳥のような数え方をしてうさぎを食べていたからでしょう。うさぎは貴重なたんぱく源だったのです。

悪役や英雄さまざまな役回り

うさぎの話は、古くは「古事記」に発しています。うさぎが海の上に並んだワニザメをだまして因幡の国に渡ろうとします。しかし、最後にワニザメの怒りを買ってしまい、川をはぎ取られて苦しんでいるうさぎを大国主命が救うというお話です。

だれでも知っているうさぎの話といえば、「うさぎとカメ」です。うさぎとカメが向こうの山まで、どちらが先に行けるか競争します。うさぎは、カメがのろいのを見て、油断して昼寝をしてしまいます。その間にカメがゴールするというお話で、地道に努力すれば必ず成功するという教訓です。

こうした話は、動物競争物語として各国にあります。ただ勝つ方の動物がカメではなく、ハリネズミ、カニ、ヒキガエル、ナメクジだったりします。負けるほうもうさぎだけではなく、ウマ、キツネ、ヒョウ、ゾウなどさまざまです。

もう一つ、日本の昔話で有名なのが「かちかち山」です。

…タヌキにおばあさんを殺されてしまい、嘆き悲しむおじいさんに同情して、うさぎがあだ討ちをします。うさぎはタヌキを薪拾いに誘い、タヌキが背負った薪にカチカチと火打ち石で火をつけてやけどをさせます。さらに、タヌキを泥舟に乗せて川に沈めてしまいます。うさぎの復習という筋書きですが、知恵が勝利をもたらすということと、弱きを助け強きをくじく勧善懲悪の教えとされています。

うさぎは悪役だったり英雄だったり、だましたりだまされたりと、いろいろな役回りをこなしています。

月の餅つきうさぎが一番有名？

うさぎは身近な動物のわりには、親しまれていることわざは少ないようです。

「兎死すれば、狐これを悲しむ」「狐死して兎泣く」は、同類の死を悲しむということ。「兎に祭文」は「馬の耳に念仏」と同じ意味で、言っても無駄なこと。「兎の登り坂」は、最も得意とする場所で力を発揮すること。「兎兵法」は生兵法のことで、役に立たないこと。どのことわざもふだんあまり聞きませんね。

よく知られているうさぎといえば、やはり月の餅つきうさぎでしょうか。

